

## 主張

三重県保険医協会は6月23日に松阪市のフレックスホテルで第46回定期総会を開催した。総会の前に記念講演会が行われた。万協製薬株式会社代表取締役社長松浦信男氏による

「21世紀を生き抜くワークライフバランスストーリーエンパワーメント組織と地域づくりのすすめ」であった。

「1年間に20人の物故者があった。来賓挨拶は吉川ゆうみ参議院議員と中川正春衆議院議員秘書の2人と少なかつた。議長には梅村忠司氏を選出した。議長が総会の成立を報告した。議事に入り、2018年度活動報

告が横山雅一副会長からあり、異議はなく承認された。2018年度決算報告が上林肇理事から説明された。監査報告が向井智志監事からあり、会計監査だけではなく「理事会・事務局の監督の重要性を弁護士から指

摘された」と述べた。2019年度役員名簿案および2019年度活動方針案が宮崎会長から示され承認された。また、上林理事から2019年度予算並びに会費について提案され承認された。

その他の議事で籠橋隆明弁護士から2点の改善点の指摘があった。一つは、監査機能の強化であり、専門家の協力と介入強化の提案であった。二つ目は、組織文化の再構築の必要性であり、職員一人一人を大切にす

# 三重協会第46回定期総会を終えて

## 協会のよりよい体制の構築を目指す

「21世紀を生き抜くワークライフバランスストーリーエンパワーメント組織と地域づくりのすすめ」であった。大手の製薬会社ではなく医薬品以外の外用薬メーカーの社長の飛躍的に成長を続ける会社の実情と働き方改革について述べられた。

三重県保険医協会の職場作り・組織文化の構築対策など組織運営に関する指摘をいただいた。すべての議事は滞りなく予定時間内に終了し、閉会した。記念パーティーが開かれた。宮崎会長の挨拶の後、吉田正副会長の乾杯の音頭で始

まった。来賓の議員の力強い挨拶があった。特筆すべきは今回の料理が例年の津のホテルに比べてよかつたことである。黒毛和牛の肉がおいしかつた。サザエ、鮎の塩焼きがあつた。

講演会、総会への参加者が少なかつた。パーティーへの松阪の方々の参加は少なくはなかつた。今後、地区を変えて行うことも検討すべきである。

会のために事務局員の方々のご苦勞を知る。働きやすい体制づくりが必要である。役員と事務局員の協調が必要である。

会場の乾杯の音頭で始